2026-2027 フィンドレー大学・福井県奨学生月例報告書９月

作成者：金牧紋花

作成日：10 月 6 日

渡米してから早くも 2 ヶ月が経ちました。月日が流れるのは非常に早く、一日一日を大切に過ごさなければと日々感じています。朝晩を中心に冷え込みが厳しくなり、長袖や毛布が欠かせない季節となりました。こうした季節の移り変わりからも、時の経過を実感しております。 今月は現地での生活に慣れ始める中で、多くの素敵な出会いにも恵まれ、自分自身とじっくり向き合う機会の多い 1 ヶ月となりました。本報告書では、今月の授業での学びや、日々の経験を通して得た気づきについてご報告いたします。

＜授業：English for Specific Purposes＞

この授業では、アメリカの文化や社会について学びます。今月は「アメリカの政治の仕組み」がテーマとなりました。事前リサーチをもとにグループで討論を行ったり、重要だと考える社会問題について意見を交わしたりと、現地社会への理解を深めることができています。 普段ニュースで何気なく聞き流していた内容も、背景や仕組みを理解した上で見ると関心の度合いが大きく変わることを実感しました。学生時代に一度学んだ内容ではありますが、実は深く理解できていなかったことにも気づかされました。11 月に控える中間選挙の行方についても、より強い関心を持って注視していきたいと思います。

＜授業：Communicative Practices＞



この授業は、日本人教授の川村宏明先生が担当される文化交流を目的とした内容で、多くの留学生が履修しています。課外活動を通して現地の方々と交流する機会があります。当初はこの授業を通して自分の出身地である福井県や日本について相手に理解してもらうことが大切だと考えていました。しかし、その考えは体験を通じて変化しました。

今月は高齢者施設を訪問し、イギリス出身の夫と南アフリカ出身の妻のご夫婦にお会いしました。写真を見せながら福

井県や家族についてお話ししたところ、お二人もご自身の故郷やご家族について話してくださいました。年齢もルーツも異なるからこそ、互いの文化や故郷の違いを共有することが会話のきっかけになり、相互理解やコミュニケーションへとつながるのだと実感いたしました。単に異文化を理解してもらうことだけを目的にするのではなく、相手の反応を見ながら、その関心に合わせて自身のバックグラウンドから伝える内容を選ぶことの大切さを学びました。 また、私が渡米した理由について自己開示をすると、ご夫婦も渡米の経緯やご家族について教えてくださいました。元教員だというお二人の経歴は私の祖父母と同じで、お話ししていてどこか懐かしさを感じました。社会人時代は仕事上で共通の目的を持つ方々との対話が中心でしたが、留学先では、これまで接する機会の少なかった、さまざまな背景や年代の方々とお話しする機会が多く、非常に貴重な経験となっています。

＜セントラルオハイオ日米協会様主催の駐在員向けワークショップへの参加＞

川村先生のご紹介で、日本から来られた駐在員の方々を対象としたワークショップに参加させていただきました。オハイオ州には多くの日本企業が進出しています。今回のワークショップでは、コミュニケーション向上のための行動傾向について学びました。まず、自分の性格や傾向を深く理解することが、他者を理解することにもつながると知りました。特に印象に残っているのは、「誰しも長所と短所がある中で、自分の性格を無理に変えようとするのではなく、しっかりと向き合った上でコントロールしていくことが大切である」という学びです。

また、普段の大学生活ではなかなか交流する機会がない、現地で働く駐在員の方々とお話しできたことも非常に刺激的な経験でした。日本を離れ、アメリカという地で働いておられるお姿に深く尊敬の念を抱きました。同じ日本出身の方がそれぞれの場所で活躍されていることを肌で感じ、私自身も頑張ろうというエネルギーが湧いてきました。最後に、セントラルオハイオ日米協会事務局長のミルズ範子様とご一緒に写真を撮らせていただきました。ワークショップ後には1on1のミーティングを設けてくださり、ミルズさんから温かいお言葉と多くのパワーをいただくことができました。



＜5K マラソン大会＞

フィンドレー大学の薬学部生が主催する 5km のマラソン大会に参加しました。この大会は心臓病予防やヘルスケア啓発を目的としたチャリティイベントで、収益の一部はアメリカ心臓協会へ寄付されます。

私は学内のランクラブに参加しているため、日々の練習の成果を試したいと思いエントリーを決めました。当日はクラブメンバーの背中を追いかけながら、今の自分の全力を出し切りました。特に終盤は本当に苦しかったのですが、ゴール周辺でランクラブの仲間や、福井県奨学生の川﨑さんたちが朝早くから応援してくれたおかげで、無事に自己ベストを更新することができました。

最近は自分の英語力が上達しているのか不安になることもありますが、ランニングと同じように日々の練習をしっかり重ねていけば成長できると信じ、これからも前向きに頑張りたいと思います。





＜今月の振り返り＞

今月は、日本とフィンドレーの架け橋として多方面でご活躍されている川村先生のお姿から、非常に多くの刺激と学びをいただきました。大学内の学生へのご指導にとどまらず、地域の駐在員の方々との深いつながりをお持ちであるほか、大学外のジムでお会いした現地の方までもが先生のことをご存じで、その存在感と影響力の大きさに感銘を受けました。異国の地という慣れない環境で生きていく中で、現地や日米双方に関する豊富な知識をお持ちである先生の存在は、大きな安心感を与えてくれます。渡米当初は

「現地コミュニティになじまなければ」という焦りがありました。しかし、どちらかを分けるのではなく、日本人コミュニティと現地のコミュニティの双方を大切にしていくことこそが重要であると改めて実感いたしました。

また先日、ある授業の先生から「雰囲気が柔らかくなり安心した」と声をかけていただきました。授業中、常に深刻な表情をしていたことを心配されていたそうです。先生から「勉学は楽しむものだ」と教えていただき、新しい挑戦に必死になるあまり、そのプロセス自体を楽しむ余裕を失っていたことに気づかされました。この気づきによって肩の力が抜け、自分自身を苦しめていた思考から解放されたと感じています。

留学中はどうしても自分の成果や成長ばかりに意識が向かいがちになりますが、それと同等に周りに目を配り、国籍関係なく他者と協力し合うことこそが、一人の人間として非常に大切であると身にしみて感じています。国や環境が変わろうとも、人と人とが支え合って過ごしていく本質は日本もアメリカも変わりないと気づきました。

今回の学びと気づきを胸に、残りの留学生活でも周囲とのつながりを大切に育みながら、そして課題に直面した時はその過程を楽しみながら、より広い視野を持って精進してまいります。

※この報告書に関してご質問等がございましたら、下記のメールアドレスまでお気軽にご連絡ください。報告内容に限らず、留学生活全般についてなど、どんな小さなことでも構いません。少しでもお役に立てることがあれば幸いです。

E-mail：kanemakia@findlay.edu

★今月の小さな気づき★

学内にある時計はほとんど機能しておりません！（動いていても正しい時間ではありません）しかし、時間にルーズな印象もなく、不思議です。自分の時計しか見ない文化なのでしょうか…？